

市民と野党の共闘前進でいわぶち再選必ず！

「被災地の声を国政に届ける」、いわぶち候補が決意表明



記者会見で決意表明する(右から)町田県委員長、いわぶち参院議員、神山県議=3日、県庁

党県委員会は3日、県庁で記者会見を開き、先に党中央がいわぶち友参院議員を来夏の参院選挙の比例候補として擁立する方針を発表したことをふまえ、参院選勝利に全力を上げると表明しました。

最初に、町田和史県委員長が総選挙総括について発言。「参院選では市民と野党の共闘をさらに発展させ、いわぶち参院議員の再選を必ず勝ち取るために、全力を尽くす」と決意表明しました。

続いて、いわぶち参院議員があいさつし、「原発事故から10年経つが、事故は終わっていない。多くの方々が、今も避難生活を強いられている。国と東京電力が加害者として、被害者の生活と生業の再建のために、最後まで責任を果たせと迫り続ける国会活動をしてきた。汚染水の海洋放出問題では、福島県をはじめ、東北各県の漁業関係者から話を聞き、

政府が自ら言った『関係者の理解なしには、いかなる処分も行わない』という約束を反故にするなど、国会質問をしてきた。引き続きこの問題に取り組み、気候危機問題を真剣に考え、憲法を生かした命と暮らしを守る政治をつくるために、来夏の参院選を全力で頑張る」と決意表明しました。

参議院議員 いわぶち友の国会だより

過去最高の軍事費、憲法9条生かし戦争しない国づくりを

参議院選挙の予定候補として発表されてから、新しく活動地域に加わった北関東の4県にうかがったり、埼玉県で街頭演説デビューするなど、さっそく活動が始まっています。どこでもあたたかく迎えていただくとともに、「私も福島県の出身だよ」「福島県に親戚がいるよ」などと声をかけて下さる方が多いことに驚いています。嬉しいことです。また、東海第二原発の再稼働反対、汚染水の海洋放出反対、農業問題など、福島や東北と共通の課題も多いと感じています。

岸田政権になって初めての本格論戦の場である臨時国会が始まりました。ここで議論する補正予算案には、軍事費約7800億円が盛り込まれ、今年度の軍事費は6兆円を超え

過去最高になります。先日、三沢基地所属のF16がトラブルを起こし、2本の燃料タンクを投棄。うち一本は、青森県深浦町の民家の前に落ちました。こんなことを許してはなりません。4日から東北と北海道で過去最大となる日米共同訓練が始まっています。憲法9条を守り、戦争する国づくりを許さない運動を広げるために力を尽くします。



比例5議席獲得を訴えるいわぶち議員(左から2人目)=1日、さいたま市

福島

2021年12月12日号 No. 53

発行：日本共産党福島県委員会 福島市南矢野目字谷地65-3
電話：024-555-0550 日本共産党福島県委員会の見解をお知らせします。

みんなで新しい県政をつくる会が 副知事申し入れ



要望書を手渡す(左から)佐々木・県農民連事務局長、野木・県労連事務局長、井出副知事、井上・新婦人会長、斎藤・県労連議長、渡辺・民医連事務局長、神山県議＝2日、県庁

みんなで新しい県政をつくる会は2日、来年度予算編成にあたっての要望書を井出孝利副知事に手渡し、懇談しました。

冒頭、共同代表の井上裕子・新日本婦人の会福島県本部会長が要望の趣旨を説明し、新型コロナ

ナ対応として、①県民のいのちを守るため医療・福祉優先の県政を、②子どもや青年・学生を守り、「日本一子育てしやすい県」の実現を、③くらし、雇用と営業、地域経済を守り、持続可能な地域づくりを―の3点と、大震災・原発事故から11年を迎えるにあたり、汚染水の海洋放出撤回、原発ゼロの社会実現と、県民一人ひとりのくらしと生業再建、気候変動の危機打開に本気の取り組みをすすめ、大規模災害への対策について要望。具体的に学校給食費無償化にむけて県の支援、生理用品の学校トイレへの配備などもあわせて求めました。

渡辺喜弘・県民医連事務局長は、オミクロン株の広がりが懸念され、PCR検査の拡充と空床対策については実態に即した対応を求め、斎藤富春・県労連議長は、ケア労働者の賃金は全産業平均より月額8万円も低く、国の対策では不十分で抜本的な処遇改善を求めたいと述べ、最低賃金の全国一律制度も要望しました。また、佐々木健洋・県農民連事務局長は、米価が下がり、農家は資材費もまかなえず労賃も出ない一方で、食べるのも大変な人たちがおり、食料支援ではお米が喜ばれていると実態を告発。余剰米の隔離やお米券などの配布で生活困窮者も地域経済も潤う施策を国に求め、県独自の支援も要望しました。

井出副知事は、「コロナ禍の中、第6波に備え医療供給体制の拡充をすすめるとともに、経済も活性化できるよう、医療と経済を両輪にしてまわしていきたい。復興も道半ば、県としても全力で取り組んでいきたい」と述べました。日本共産党からは神山悦子県議が出席しました。

今こそ福島県の真の復興と原発ゼロ の未来へ！ オンライン全国大会



12月18日(土)
午後2時より
原発をなくす全国連絡会
で検索ください。



YouTube
視聴はこちら

福島県農民連が定期総会を開催



総会にリモート出席し、あいさつをするいわぶち議員＝5日

福島県農民連は5日、第35回定期総会をオンラインで開催し、アグロエコロジイの実践で食・環境・地域を守ることや2500人の組織をめざすことなど次期運動方針を決め、会長に根本敬さん、事務局長に佐々木健洋さん(ともに再任)など新たな役員を選出しました。

来賓あいさつで、日本共産党のいわぶち友参院議員は、米価暴落、原発事故に伴う損害賠償、気候危機に取り組む農民連のたたかいを激励し、「みずから改選を迎える来年夏の参議院選挙に勝利し、政権を変える大きな一歩にしていこう」と決意を述べました。

討論では、「税金の自主申告や持続化給付金の申請を通じて、義務教育では学べなかったことを農民連で学ばせてもらった」「4年前に新規就農したが、畑の確保や技術の習得で苦労した。こうした経験を次の新規就農者に伝え援助していきたい」「総選挙では新しい会員に働きかけた。選挙に取り組めば組織は強くなることを実感した」などの発言がありました。

郡山市と白河市で「3の日」行動



(左から)白河駅前と、郡山駅前での宣伝の様様

毎月3日には「アベ政治を許さない」「憲法九条を守ろう」などさまざまなポスターやプラスターを掲げるスタンディング行動が取り組まれていきます。先の総選挙では、自民、公明、維新の会など改憲勢力が、「改憲発議」に必要な3分の2以上の議席を占めました。憲法共同センターなどでは「落ち込んでいたら改憲勢力の思うツボ」と、郡山市や白河市で「3の日」行動に取り組みました。

郡山駅前で行われた宣伝では、新しくできた「憲法改悪を許さない全国署名」(呼びかけ団体・9条改憲NO!全国市民アクション)への協力を呼びかけ、女性や若者が署名に応じました。

白河駅前では、母親連絡会と合同で、「赤紙(戦前の召集令状)の拡大コピー」などの横断幕などを掲げ、「憲法を守り抜くことが子や孫たちへの最大のプレゼント」などと訴え、赤紙コピーを配布し、「アベ・スガ延長政治を許さない・9条改憲NO!」白河行動を行いました。走行中の車からのクラクション激励や「がんばって」との声援の声も聞かれました。